

青山学院大学文学部フランス文学科主催・シンポジウム

フランス哲学と「科学」の思考

構造主義・数学・医学・エピステモロジー

2011年11月20日（日）14時-17時30分（13時30分開場）

青山学院大学青山キャンパス 総研ビル（14号館）3F・第10会議室

入場無料・事前申し込み不要



古来、哲学はさまざまな科学と不可分の関係を取り結んできた。数学、物理学、生理学や医学等々、さまざまな科学が哲学とともに、広大な「人文学」の領域を形成してきたのである。学問の専門化が進行した近現代の思考において、哲学と科学を通底する広大な知の地層を探ることは、すでに困難なことかも知れない。だが、一見失われたかに見える哲学と科学との結びつきをさまざまな「知」の具体的なあり方のうちに見出し、「哲学的な思考」と「科学的な思考」が互いを支え合うさま、またその片方がもう片方にとっての密やかな原動力となるさまを見ることができはしないか。科学史や、フランスで花開いた「科学認識論（エピステモロジー）」によってもたらされた知見を中心軸としながら、数学や哲学、医学といった知の領域の背景に垣間見える「科学的思考」のあり方を検討する。

参加者（50音順）



阿部崇（司会・青山学院大学） 《イントロダクション：哲学の思考と科学の思考》

田中祐理子（京都大学） 《「非人間的」な身体的思考：フランス医学理論の変転について》

前田晃一（東京大学UTCP共同研究員） 《ミシェル・フーコーの絵画論におけるエピステモロジーの影響》

松岡新一郎（国立音楽大学） 《数学と構造主義：ブルバキの1950年代》

お問い合わせ：

青山学院大学文学部フランス文学科合同研究室（tel：03-3409-7914）

阿部崇研究室（tabe@aoyamagakuin.jp）